



大阪プロバスクラブ

会報 第368号

2022年4月11日発行

Monthly Bulletin of
The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
 例会日：(原則) 毎月第2月曜日 12時より14時まで
 ○創立 2001(平成13)年7月9日創立記念式7月16日
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
 ○会長：有竹正巳 ○幹事：西宮富夫 ○事務局：(幹事宅)
 〒563-0022 池田市旭丘2-6-25 Tel：090-7496-5096
 ○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com
 ○会報ホームページ：<http://osakapurob.exblog.jp/>
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>
 会長：古賀靖子(北九州)、副会長：川端崇且(大阪)、島村吉三久(五所川原)、馬場康博(旭川)、田中信昭(東京八王子)、
 幹事長：松本 忠(北九州)
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版
<http://probuscent.exblog.jp/>

3年12月中旬から3月中旬まで3か月間の更新分(順不同)

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 第198号 第199号 第200号	198号：ごあいさつ 会長中田雅昭、他 199号：コロナとお酒(小門史子)、他 200号：父のエピソード(高橋紀博)、 コロナと書道(日隈利穂)、他
鈴鹿西	会報 第255号 第256号 第257号	255号：旧市街地の生き残りは可能か (辻野佳規)、他、256号：趣味交換「作 品塑像」南部武司、他、257号：新たな 視点(お菓子)から見たリヨンの歴史 (ヴェトリヌ・ウイリアム)、他
東京多摩	プロバス ニュース 第98号 第99号	98号：ごあいさつ 餅句会会長増山敏夫、 卓話「タクラマカン砂漠縁辺の自然と 人」高村弘毅会長、他、99号：シベリ ア抑留の父帰る小林務会員、オンライ ン会議ははじめました伊藤健一会員、他
神戸北	1月例会、 2月例会、 3月例会、 のご案内	1月：「ひとこと」藤田尚孝会員、一人 5分スピーチ他、2月：「ひとこと」森 田守彦他、3月「2月例会講演：お花の お話」佳生流家元西村公延様、他
東京八王子	プロバス だより 第313号、 第314号、 第315号	313号：日本遺産「双都(八王子)物語」 八王子市文化財課主査草間垂樹氏、他、 314号：八王子いちょう祭り(岡本宝 蔵)、他、315号：私の人生経験(五位 堂保)、東京八王子2022(一瀬明)、他
北九州	つながり 第186号 第187号 第188号	186号：卓話「北九州進撃のファンファ ーレ」BLOOMINN JAPAN 竹内和久氏、他、 187号：同好会報告、他、188号：卓話 「茶道について」古賀靖子会員、他
姫路南 (二水会)	会報 第109号	「4万kmを歩いた男、伊能忠敬の「人 生二度有り」(その12)」松下秀明記、 他
大阪	会報 第366号、 第367号	266号：「比叡山に行ってきた」小林惇 三、「馬見丘陵公園に行ってきた」吉田 州伸、他、367号 Xmas 例会：近況報告 「小豆島へ行ってきた」蒲生惇子、「南 座へ行ってきた」松山まさみ様、他

今回 第369回 観桜会 2022年4月11日(月)
 会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00
 【2022年2月14日、同3月14日の2度の例会が休会
 となりましたので、今回が第369回例会】

- 大阪プロバスの歌(作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎)
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
 - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
 - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快に生き抜こう

●春の小川(作詞：高野辰之 作曲：岡野貞一)

- ①春の小川は、さらさら行くよ。
岸のすみれや、れんげの花に、
すがたやさしく、色うつくしく、
咲けよ咲けよと、ささやきながら。
- ②春の小川は、さらさら行くよ。
えびやめだかや、こぶなのむれに、
今日も一日、ひなたでおよぎ、
遊べ遊べと、ささやきながら。

前回 第368回 通常例会 2022年1月17日(月)
 会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00

◎第368回 通常例会

- 司会進行：野村尚子会員
 ○ソング：吉川栄子会員 ●冬景色
 ○乾杯：西田隆昭会員
 ○食事タイム
 ○有竹正巳会長挨拶
 ○幹事報告：
 ・例会後理事会開催いたします。
 ・全日本プロバス協議会「ひろば」第5号に松岡さんの
 記事「末期高齢者と平穏死」が掲載されていますので、
 回覧します。
 ○誕生月会員：(左から)1月西田隆昭会員、12月川端
 崇且会員



(西田会員：1月28日で89歳になります。酒をたしなむ
 毎日です。)(川端会員：この度ホールインワンをやっ
 てしまいました)

○出席報告：出席委員長中井良美会員より、会員 11 名出席との報告あり。

○OH-BOX 中井良美委員より 7 名 16,000 円との報告があった。(以下順不同)

★西田隆昭会員：謹賀新年 卒寿を迎えました。今年もよろしく。

★川端崇且会員：本年もよろしくお願い致します。

★小林惇三会員：新年おめでとうございます。お正月以来、コロナを恐れ外出もせず家に閉じこもっています。酒量が上がって血糖値が上がって困ります。一日も早く 7 コロナがいなくなります様に。

★吉田州伸会員：明けましておめでとうございます。今年こそは良い年にしたいものです。会員の皆様元気です！

★西宮富夫会員：このままコロナが終息してもらえると助かるのですが。

★浅山紀久子会員：明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。クリスマス会にはご参加下さいましてありがとうございました。

★野村尚子会員：明けましておめでとうございます。今年もどうか宜しくお願い致します。

◎卓話 1：「生き抜くヒント！（五木寛之）」

有竹正巳会員

(会報担当より：この卓話は 2022 年 1 月 13 日週刊新潮の五木寛之氏の連載第 377 回記事より一部を抜粋引用したものである。)

★加齢なる日常

新型コロナの来寇とともに、夜型人間から朝型人間へと変身して約二年がたつ。朝食というものを食して、近くの公園を十五分ほど歩く習慣がついた。ふと気がつくと、すれちがう人達はみなコートや暖かそうなブルズンを着ている。ツイードのジャケット一枚、羽織っただけの自分がなんとなく場違いに感じられた。

季節はすでに真冬である。当然寒いに決まっている。(中略) 私は外地から引揚げ後、中学、高校と福岡で暮らした。久留米や柳川にちかい筑後地方であった。(中略) いま暮らしている関東は、九州よりはるかに寒いはずだ。それにもかかわらず、冬になってもあまり寒さを感じることがないのはどういうわけだろう。地球温暖化のせいだろうか。それとも栄養状態が昔よりよいからだろうか。

そのことを編集者の Q 君に聞いてみた。彼は口が悪いというか、言いにくいことをズバズバ言うので評判の男である。「最近、あまり寒さを感じないんだけど」

すると彼は言下に断言した。「それは加齢のせいです」(中略)「年をとると、暑さ寒さの感覚が鈍っていくというのは常識です」

(以下略)

★打たれ強い人

火傷をしがちなのも高齢者の特徴だそう。要するに外界の変化に鈍感になったということだろう。鈍感力などと威張らなくても、人はおのずから鈍感になるのである。打たれ強い人、というのがいる。政治家などにはことに多い。しかし、そういうタイプは、おおむね老人である。不動心の持主というより、単なる加齢現象かもしれないのだ。

私もある年齢から、人に批判されたり、皮肉を言われたりしてもほとんど気にならなくなった。不動心とかではなくて、単に感情が硬化しただけのことだろう。

(以下略)

◎卓話 2：「丹後」西宮富夫会員

(会報担当より：有竹会長の卓話が五木寛之氏の文章を引用する形だったので、ページの関係もあり、卓話 2 を追加させていただきました。)

●最近、「丹後」に関係した出来事が 2 件あった。

★2021 年 7 月発行の会報 361 号で与謝蕪村を取り上げました。その時点では蕪村の母が与謝野町与謝出身とまでは知っていましたが、蕪村の俳句・歌碑などを中心としたので、母親の出身地までには触れられなかった。

★そのころ、京都府がネット上で「海の京都・丹後の巨樹ものがたり」(京都府立宮津高校・宮津天橋立高校フィールド探求部他の同書編集委員会発行)の無料配布案内をしていたので申し込んだところ、京都府から送っていただいた。そこには、丹後の興味深い情報が多く見られたのでそれらを簡単に地図にまとめてみました。

丹後半島 (地理院地図より作成)



(時計回りに番号)

①間人 (たいざ)

★竹野神社：この神社の祭神は天照大神。境内にはもう一社、斎宮(いつきのみや)神社があり、竹野姫命(たかのひめのみこと)が祀られている。竹野姫は、丹波国を治めていた丹波大県主(おおあがたぬし)由基理(ゆごり)の娘で、第 9 代開化天皇の妃となった。

★間人皇后：聖徳太子の生母間人皇后(はしうどころごう)が蘇我氏と物部氏との争乱を避けて丹後の当地に身を寄せ、のちに当地を去るに当たって自らの名をこの地に贈ったものの、住民は「はしうど」と呼び捨てにすることを畏れ多く思い、皇后がこの地から退座(たいざ)したのにちなみ間人を「たいざ」と読み替えた、との伝承が残る。

②浦島神社

浦島神社(公式サイト)は浦島子(浦島太郎)を祀る。(以下 Wikipedia より)現代において日本で広く普及する浦島太郎の御伽話は、明治から昭和にかけて読まれた国定

教科書版に近い内容である。

③伊根の舟屋（伊根町観光協会より）

舟屋とは、もともと船を海から引き上げて、風雨や虫から守るために建てられた施設。昔は漁で木造船を使用していたため、それを乾かす必要があった。船を収納する一階に対して、二階はかつて網の干し場や漁具置き場として使われていた。

④天橋立（Wikipediaより）

丹後国風土記に「イザナギは久志備の浜の北にあるイザナミのいる奥宮に天から通うために梯子を作ったが、寝ている間に倒れてしまった、というのが天橋立の名の由来」と書かれている。



（天橋立観光協会「天橋立観光ガイド」画像を切抜）

⑤由良（汐汲浜）（安寿と厨子王 Wikipedia より）

（前略）安寿と厨子王は丹後由良湊の長者山椒太夫に売り渡された。山椒大夫のもとで姉弟は酷使された。弟は1日に3荷の柴を刈れ、姉は1日に3荷の潮汲みをしろ、間があれば藻塩を焼く手伝いをしろ、糸を紡げ、と追い使われ、弟は柴刈り払う鎌を怨み、姉は潮汲む桶に泣いた。そして姉弟はついに、再会を約して逃亡を図った。姉を残して都へと行くのをためらう厨子王に、安寿姫は強く勧め、弟が去った後、自身は山椒館の近くの沼に身を投げて亡くなった。

⑥大江山酒呑童子（Wikipediaより）

一条天皇の時代、京の若者や姫君が次々と神隠しに遭った。安倍晴明に占わせたところ、大江山に住む鬼（酒呑童子）の仕業とわかった。そこで帝は長徳元年（995年）に源頼光と藤原保昌らを征伐に向わせた。（中略）一行は、首級を持ち帰り京に凱旋。首級は帝らが検分したのちに宇治の平等院の宝蔵に納められた。

⑦与謝野町与謝（蕪村の母生誕地 Wikipedia より）

与謝野町の谷口家には、げんという女性が大坂に奉公に出て主人との間にできた子供が蕪村とする伝承と、げんの墓が残る。同町にある施薬寺には、幼少の蕪村を一時預かり、後年、丹後に戻った蕪村が礼として屏風絵を贈ったと口伝されている。

⑧細川ガラシャ（Wikipediaより）

★幽閉地：天正10年（1582年）6月、父の光秀が本能寺の変で織田信長を討ち、その後の山崎の戦い後に没したため、「謀叛人の娘」となる。忠興は天正12年（1584年）まで彼女を丹後国の味土野（現在の京都府京丹後市弥栄町）に幽閉した。

★戯曲：ガラシャのキリスト教徒への改宗は、当時日本に滞在中のイエズス会宣教師たちが本国に報告していた。ガラシャの実話に近い内容の戯曲「強き女... またの名を丹後王国の女王グラツィア」が制作され、1698年7月31日にウィーンのイエズス会教育施設において、音楽つきの劇の形で初演された。

この戯曲はオーストリア・ハプスブルグ家の姫君たちに特に好まれたとされる。

◎近況報告：中井良美会員「九州場所へ行ってきた」

昨年11月、福岡国際センターの九州場所に行ってきた。「琴の若」など佐渡ヶ嶽部屋の力士の応援のため。琴の若は現親方の息子で、元横綱「琴桜」の孫とのこと。

★福岡国際センター（地理院地図より作成）



★以下、中井会員ブログ「東心斎橋の片隅 喜笑女将の独り言→九州場所」より写真引用

九州場所中の福岡国際センター



佐渡ヶ嶽部屋「琴勝峰」



佐渡ヶ嶽部屋「琴の若」(元横綱「琴桜」の孫)



●初心者の大相撲の楽しみ方

(会報担当より：女性向け研修会社(株)シェリロゼ代表井垣利英氏の「『大相撲のマナー』初心者向けお相撲の楽しみ方 ～大相撲観戦に行こう！～」より抜粋引用。画像とも)

★チケットは約2か月前から販売開始！

大相撲観戦チケットは、日本相撲協会公式販売サイト『チケット大相撲』やチケットぴあなどで買えます。開催の約2か月前から販売スタートで、最近は大相撲が大人気のため、チケットはどの会場も**抽選**で、私も複数の申し込みをしてもすべて落選することがあります。会場によって席は異なりますが、東京の両国国技館の場合、土俵から近い順に、

- 「溜席(たまりせき)＝砂かぶり席(1階)」
- 「マス席(1階)」
- 「イス席(2階)」の3種類があります。



★土俵に一番近い溜席(たまりせき)＝砂かぶり席。砂かぶり席とも言います。最も取るのが難しいのが、この土俵のまわりの溜席(たまりせき)です。その半数以上が維持員席で、残りを一般販売で確保するので

溜席の前方の緑色の座布団(維持員席)と赤紫色の座布団(一般席)で区別されています。座布団の前後に番号が書かれて

いるのでその指定番号の座布団に座ります。ご覧のとおり、座布団だけなので、長時間座っているのは大変です。溜席はほかの席と違って「飲食禁止」です。また、写真撮影や携帯電話の使用もNGとされています。

●角力の元祖

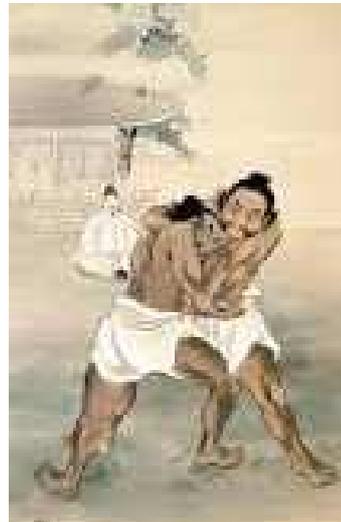
(会報担当より：日本書紀の第11代垂仁(すいにん)天皇の段に相撲の発祥の物語がある。

以下、日本書紀全現代語訳(宇治谷孟)上：巻第六「垂仁天皇」より引用)

(垂仁天皇の)「七年秋七月七日、お傍の者が申し上げた。当麻郡に勇敢な人がいます。当麻蹶速(タギマノクエハヤ)といい、その人は力が強くて、角を折ったり、曲がった鉤を伸ばしたりします。人々に、『四方に求めても、自分の力に並ぶ者はないだろう。何とかして強い力の者に会い、生死を問わず力比べをしたい』と言っています」と言った。

天皇はこれをお聞きになり、群卿たちに詔して、「当麻蹶速は天下の力持ちだという。これにかなう者はあるだろうか」と言われた。ひとりの臣が進み出て、「出雲国に野見宿禰(ノミノスクネ)という勇士がいると聞いています。この人を蹶速に取り組みさせてみたらよいと思います」と言った。(中略)

野見宿禰が呼ばれた。野見宿禰は出雲からやってきた。当麻蹶速と野見宿禰に角力をさせた。



二人は向かい合って立った。互いに足を挙げて蹴り合った。野見宿禰は当麻蹶速のあばら骨を踏み砕いた。また、彼の腰を踏みくじいて殺した。そこで当麻蹶速の土地を没収して、すべて野見宿禰に与えられた。これが、その邑に腰折田(こしおりだ)(山裾の折れ曲がった田)がある由来である。野見宿禰は、そのまま留まってお仕えした。」

(画像引用元：日本相撲協会公式HP 相撲の歴史より)

●相撲神社(奈良県桜井市巻向辺り)

(会報担当より：近鉄桜井線(万葉まほろば線)巻向駅近くに垂仁(すいにん)天皇珠城宮(たまきのみや)跡伝承地があり、その近くに相撲神社がある。巻向には多くの天皇の宮伝承地や天皇陵がある。箸墓古墳もある。古代ではにぎやかな場所だったと思われる。)



(Google Map より作成)

次回 第370回 通常例会 2022年5月9日(月)
会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00